

# 都市計画の検討における 可視化サイトの活用 ～絵で見るまちの変化～



名古屋市 都市計画課

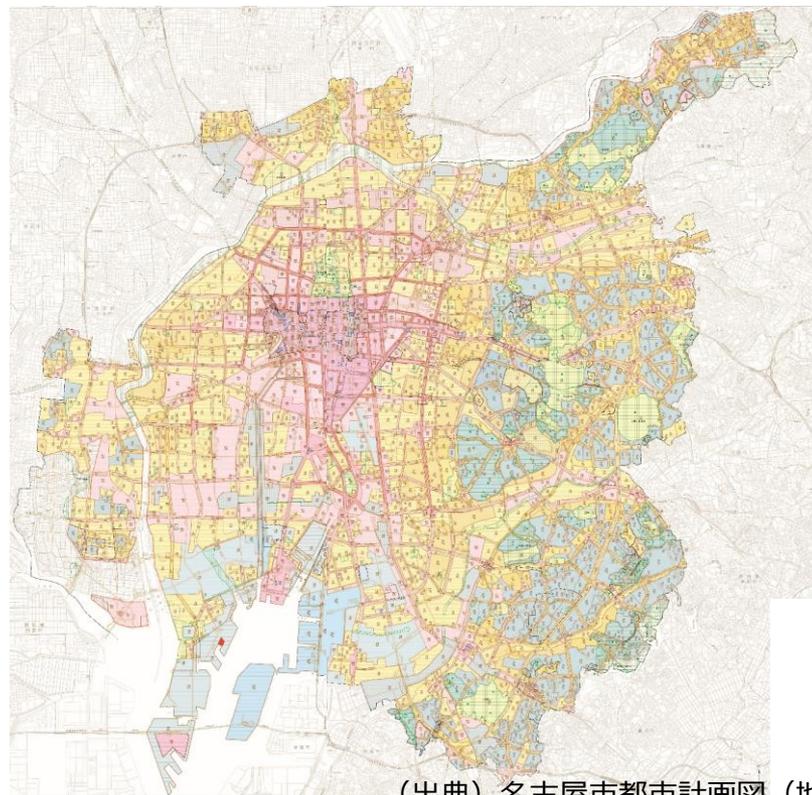
# 1. 名古屋市の土地利用計画

## 用途地域指定状況

用途地域は、土地利用計画の根幹となる制度であり、本市では大正13年に初めて決定され、建築物に関する規制等と連携し、本市の土地利用を適切な方向に誘導する役割を果たしてきた。

種類	面積
第1種低層住居専用地域	4,956ha
第2種低層住居専用地域	90ha
第1種中高層住居専用地域	1,006ha
第2種中高層住居専用地域	1,955ha
第1種住居地域	7,192ha
第2種住居地域	3,135ha
準住居地域	315ha
近隣商業地域	2,566ha
商業地域	2,287ha
準工業地域	3,553ha
工業地域	2,555ha
工業専用地域	648ha
合計	30,258ha

※令和4年12月時点



(出典) 名古屋市都市計画図 (地域制)

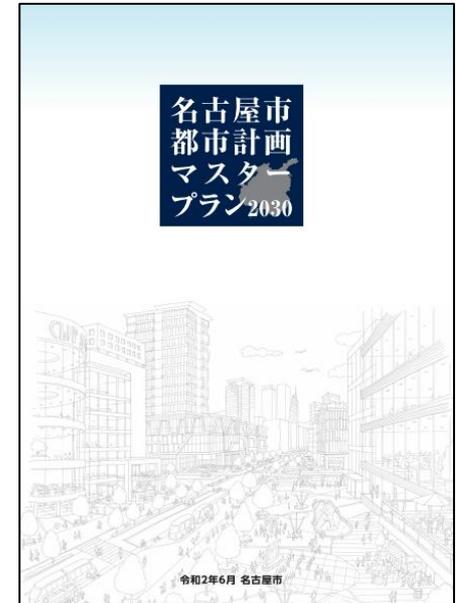
## 2.土地利用計画の見直し

### これまでの主な見直し

用途地域は、上位計画に即し、名古屋市都市計画マスタープランの将来都市構想を基本として指定している。指定にあたっては、都市全体にわたる都市機能の配置及び密度構成等の観点から検討し、望ましい市街地の形成を誘導するものとしている。

また、土地利用の変化やまちづくりにおける諸課題に対応するため、定期的な見直しを実施している。

- 昭和54年 第1回全市見直し
- 昭和61年 第2回全市見直し
- 平成 8年 第3回全市見直し
- 平成18年 第4回全市見直し



名古屋市都市計画マスタープラン2030  
(令和2年6月)

# 5.土地利用の把握

## 用途地域の見直しにおける活用のイメージ

メッシュ規模の設定にもよるが、全市的な土地利用の変化をみるのに傾向がつかみやすいため、検討時の導入ステップや、都計審、市民への説明等で活用が考えられる。

### <見直し検討ステップのイメージ>

#### STEP 1

- ・可視化データを用いて経年変化による**大まかな土地利用の変化**をつかむ

#### STEP 2

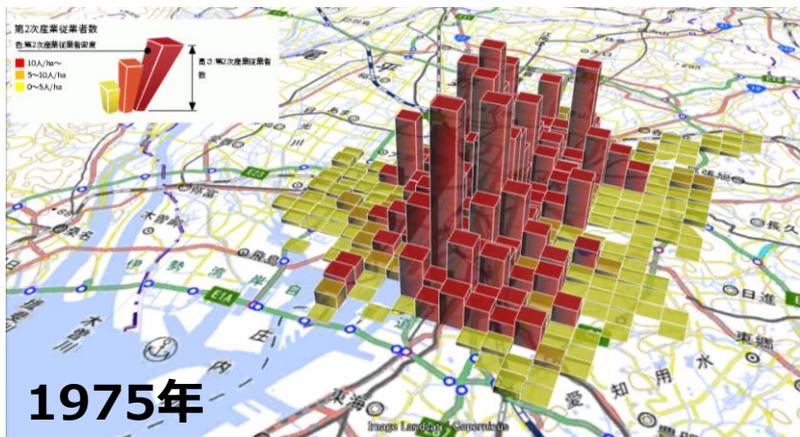
- ・STEP 1 のエリアにおいて基礎調査の結果等を用いた詳細な土地利用の変化を把握

#### STEP 3

- ・これまでの見直しの経緯や周辺の土地利用を踏まえて見直し案を作成

# 3.土地利用の把握

## 第二次産業従業者数からみる工業系土地利用の経年変化



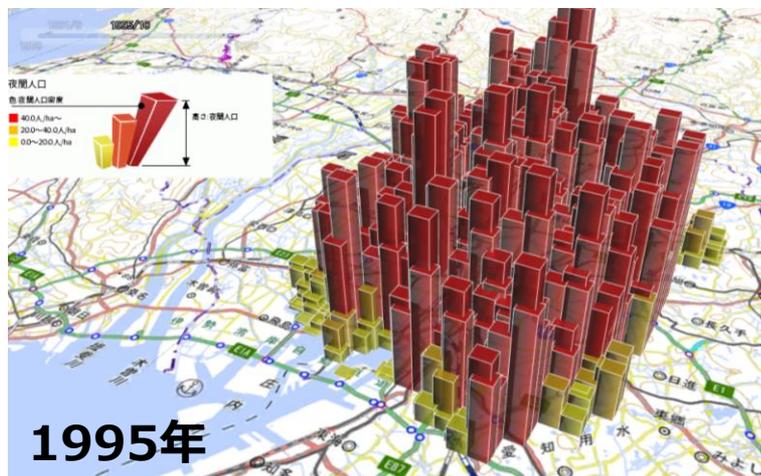
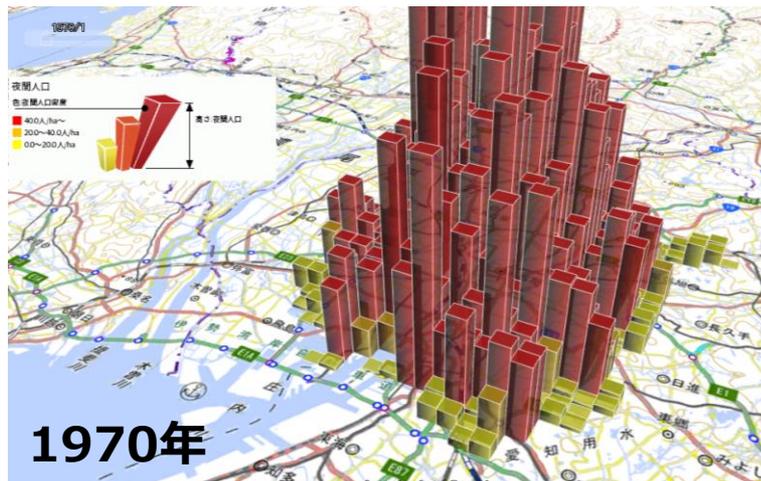
1995年から2013年にかけて工業系用途地域が面的に指定されている臨海部の第二次産業従業者数が少なくなっている。

→土地利用変化の可能性はある。

- 名古屋市圏の第二次産業従事者数分布  
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

# 4.土地利用の把握

## 夜間人口からみる工業系土地利用の経年変化



1995年から2022年にかけて工業系用途地域が面的に指定されている臨海部の夜間人口の密度や数が増えてきている。

→住居系土地利用が増えている可能性がある。

- 名古屋市圏の夜間人口分布  
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

## 研修を受けた感想

### <本市の課題>

可視化の優位性は感じたが、本市では、仮想デスクトップを導入しており、仮想環境ではGoogle Earth Proのダウンロードができないため、通常業務で使用することが困難であり、容易に利用できる環境が整うとよいと感じた。

### <今後に向けて>

今回の研修では、「都市構造可視化計画」サイトの既存データから作成したが、本市データを活用した可視化にも取り組んでみたい。

金城ふ頭では、ものづくり中部を支える港湾物流機能と調和を図りながら、あおなみ線や伊勢湾岸自動車道などによる交通の利便性を活かして、「レゴランド・ジャパン・リゾート」や「リニア・鉄道館」、「メイカーズピア」などの商業・アミューズメント施設を中心とした複合的な都市開発が進んでおり、国際展示場「ポートメッセなごや」とあわせて多くの人々が訪れる交流拠点となっています。

令和4年10月1日には、国際展示場の新第1展示館、コンベンションセンターがオープンしました。MICE誘致に向けた展示場の機能強化も図りながら、さらなるにぎわい創出に向けてまちづくりを進めています。



金城ふ頭に遊びに行こう！  
スタンプラリー(2022冬)を  
開催中！！

そのほか金城ふ頭の施設で  
様々なイベントも行われる予  
定です。

ぜひこの機会に金城ふ頭  
にお越しください。

